

2016年度 学会発表(症例報告は除く)

番号	氏名	発表課題名	学会名(場所・年月)
1	片岡葉子	長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療—proactive療法成功のコツ—	第32回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 岡山市(2016.4.24)
2	片岡葉子	成人アトピー性皮膚炎の治療戦略と血清バイオマーカーTARC	第115回日本皮膚科学会総会, 京都(2016.6.3)
3	中島園美、片岡葉子	重症成人アトピー性皮膚炎に対する寛解導入兼教育入院の心身医学的効果～コーピングスタイルの変化～	第57回 日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 仙台市(2016.6.4)
4	片岡葉子	アトピー性皮膚炎治療におけるtight controlの意義・成果・課題	第65回日本アレルギー学会学術大会, 東京都(2016.6.17)
5	片岡葉子	アトピー性皮膚炎: 診療に役立つ皮膚の診方・考え方	第49回日本アレルギー学会専門医教育セミナー, 東京都(2016.6.19)
6	片岡葉子	皮膚科診療におけるコメディカルとの協働—重症小児アトピー性皮膚炎の治療・教育・支援へのとりくみから—	第40回日本小児皮膚科学会, 広島市(2016.7.2)
7	片岡葉子	皮膚疾患における職業性アレルギーの現状と課題	第47回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会, 東大阪市(2016.7.9)
8	片岡葉子、岸田寛子、外村香子、小杉笑、坂本幸子、吉岡詠理子	重症成人アトピー性皮膚炎: 外用tight controlで治せる症例VS. 治せない症例: 背景因子の検討	第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 東京(2016.11.5-6)
9	外村香子、坂本幸子、小杉笑、岸田寛子、片岡葉子	TARCを活用したproactive療法の実践	第58回アレルギーQ & A研究会, 大阪市(2017.1.21)
10	片岡葉子、中島園美 ¹ 、外村香子、岸田寛子、小杉笑、坂本幸子、吉岡詠理子 (¹ 神戸薬科大学臨床心理学研究室)	重症成人アトピー性皮膚炎患者のストレスコーピングとtight controlによる変化	アトピー性皮膚炎治療研究会第22回シンポジウム, 京都(2017.1.28)
11	片岡葉子	皮膚心身医学的視点から見た病勢バイオマーカーTARCの意義と活用	第7回日本皮膚科心身医学会, 京都(2017.1.29)